

青森県^{さんばち}三八地域における自伐型林業の推進に向けた取組

青森県三八地域県民局地域農林水産部林業振興課 主幹 室谷豊

1 はじめに

三八（さんばち）地域は県南東部、岩手県境に接する7つの市町村からなる海と山に囲まれた自然溢れる地域です。年間を通して穏やかな気候で、夏は偏東風（ヤマセ）の影響を受け冷涼で、冬は晴天が多く乾燥しています。

地域の私有林面積は58,617ヘクタールで、県内全体の約4分の1を占めており、県内随一の私有林地帯で、アカマツが県全体の約半分を占める主要な生産地です。

全国的な傾向と同様に、本県でも林業就業者数の減少と高齢化が進行しており、今後の人口予測を考えると労働力不足が懸念される状況となっています。

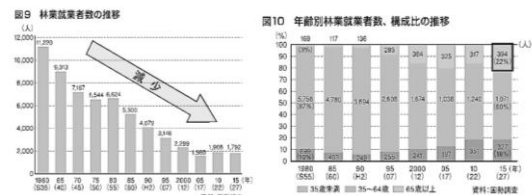
本県では令和3年4月から「青い森林業アカデミー」を開講し、林業担い手の育成と就業支援をスタートしましたが、地域住民や森林ボランティアなど、様々な方々に山造りに参画してもらうような地域に密着した担い手育成の取組も展開していく必要があると考えています。

そのような中で、三八地域は青森県内で初めて「木の駅プロジェクト」が発足した地域です。平成28年に新郷村で、平成30年に三戸町で展開しており、三戸町には町内に2つめの木の駅も発足し、森林所有者が山の手入れに興味を持ち、所有林を自ら整備する機運が高まっています。

その木の駅プロジェクトの参加者の中から「自伐型林業」への関心の声が聞かれ、知識習得の場を提供することによって、より一層の意欲向上を図るとともに、当地域においても森林所有者による森林整備をさらに展開させていこうという趣旨から、取組を実施しました。



青森県における林業就業者数の推移



出典 青森県森林・林業基本方針(2019年度-2023年度) P4



新郷村木の駅プロジェクトの取組状況

2 取組内容

取組に関しては、「特定非営利活動法人 持続可能な環境共生林業を実現する自伐型林業推進協会（以下、「自伐協」という。）」と「一般社団法人 東北・広域森林マネジメント機構（以下、「東北広域マネジメント」という。）」の協力のもと、イベントを開催しました。

(1) 三八地域森林資源活用セミナー（令和2年8月21日）

「自伐型林業」の専門家をお招きし、より深く理解することを目的に五戸町立公民館において、「三八地域森林資源活用セミナー」を開催しました。

第一部は、自伐協代表理事の中嶋健造氏とふくい美山きときとき隊代表理事の宮田香司氏に「持続可能な環境共生林業を実現する自伐型林業」と題してご講演いただきました。第二部は、東北広域マネジメント代表理事の三木真冴氏をコーディネーターに、「東北における自伐型林業の展開と課題」というテーマでパネルディスカッションを行いました。

当日は木の駅プロジェクトのメンバーのほか、森林ボランティア、行政機関、森林組合、森林所有者等、約50名がセミナーに駆け付け、講師の方々の話を熱心に聞き入っていました。



基調講演を行う中嶋健造氏



取組を発表する宮田香司氏



パネルディスカッションの様子



講演中熱心に質問する参加者

(2) 三八地域森林資源活用技術講習会（令和2年11月21日～23日）

新郷村役場と周辺山林において、新郷村木の駅プロジェクト実行委員会や森林ボランティアのメンバーを対象とし、安全な伐木技術を学ぶ目的でチェーンソーの基本知識等を学ぶ講習会を開催しました。

講習会では、自伐協講師の山口祐助氏と東北広域マネジメント代表理事の三木真冨氏が3日間の学科及び実技講習を行い、修了後、受講者に対して「伐木等特別教育修了証」を発行していただくなど、多大な御協力をいただきました。

講習期間は比較的天候にも恵まれ、受講者15名が無事修了証を手に入れました。



チェーンソー基本操作の実技講習



講師の伐木技術に感嘆する研修生



チェーンソーの点検整備を熱心に聴講



研修室での学科講習の状況

(3) 森林環境譲与税活用検討視察研修（令和2年10月14日）

自伐協や東北広域マネジメントと連携した取組ではありませんが、市町村に配分される森林環境譲与税を活用した担い手育成に向けた取組の可能性について検討するため、市町村及び森林組合職員とともに岩手県葛巻町を視察し、岩手県の林業普及指導員や葛巻町の担当者と情報交換を行いました。



意見交換会場の席に着く参加者



森林環境譲与税の意見交換会の様子

また、その日の午後は、葛巻町で「安孫（やすまご）自然塾」を主宰する外久保 葛雄氏の所有林を視察しました。

森林組合に長く勤めた経験を活かし、森の恵みを活かした手作り器具の製作や自力で開設した高密度作業道の状況など、同氏から山造りの理念などをお聴きする機会をいただきました。



手づくり器具を説明する外久保 葛雄氏



森林作業道と林内を視察する参加者

3 成果及び考察

(1) 成果について

セミナーについては参加者の多くが自伐型林業について深く理解できたことが大きいと考えています。遠くは山形県から駆け付けた方もおり、自伐型林業に対する関心の高さが窺い知れました。参加者からは質問が飛び交い、「こんな山づくりがあるのか」との声も聴かれており、普及啓発に大いに成果があったと考えています。

チェーンソーの技術講習会は、木の駅プロジェクトで毎年開催している安全講習会から、更に踏み込んだ内容であり、技術向上に結び付く有意義なものでした。修了証の発行により、森林整備への意欲も喚起できたと考えています。

森林環境譲与税の視察研修は、岩手県内の森林環境譲与税を活用した取組を拝聴するとともに、自伐林家が整備した森林を実際に視察できたことは、市町村職員の業務経験として、何物にも代え難い貴重な体験だったと考えています。

(2) 考察及び課題

この取組のポイントは、「森林所有者が自ら山に入って稼ぐことができる」「それを実践している方が全国にいる」事実を知ってもらうことでした。セミナーの開催によって、地域住民や森林所有者が自伐型林業に可能性を感じてもらえたことは良かったのですが、この機運を断ち切らないよう、意欲の減退や情報の風化を防ぐ必要があると考えています。

また、市町村による林業の担い手育成に向けた取組の推進も重要です。三八地域7市町村において、森林環境譲与税を活用した林業の担い手育成や林業事業者に対する支援につながる具体的な取組が、現在のところ進んでいない状況です。今後、市町村の立場で取り組むべき事業をどのように進めていくのか、ともに模索していく必要性を感じています。

(3) 今後の取組展開

今後の取組内容は大きく3つです。

1つめとして、「自伐型林業」の継続的な情報発信です。「木の駅プロジェクト」の取組が進んでいる当地域において、勉強会や座談会などを今後も推進していくとともに、「自伐型林業」に関する継続的な情報発信を行います。

2つめとして、初級者向け技術講習会とスキルアップ講習会の開催です。山造りビギナー対象のチェーンソー講習会を開催するとともに、既に山造りを始めている森林所有者には、作業効率を高めるための林内路網作設研修の開催を検討しています。

3つめとして、市町村の森林環境譲与税を活用した担い手育成事業の展開です。市町村の実状を踏まえ、山を手入れしたい地域住民等の参画を促進するような市町村単独事業の展開を支援していきます。

4 最後に

森林所有者自らが森林整備に関わり、将来的に「自伐型林業」を指向していくとともに、山の作業に携わる者が増えることを期待します。

さらに、この波が定年退職者やUIJターンの若者など、様々な年齢層・人材に波及することで、地域が主体となった「山造り」の裾野が拡大していくことを切に願っています。

